

公務災害防止事業の推進

▶ 消防団員安全管理セミナーを実施して ◀

新潟県消防協会長岡地区支会

1. はじめに

新潟県消防協会長岡地区支会は、長岡市、見附市、出雲崎町の2市1町で構成され、新潟県の中央に位置しています。

長岡市は、戊辰戦争と第二次世界大戦の二度にわたり焦土化し、そのたびに、「米百俵の精神」で復興を成し遂げてきた街です。また、8月に開催される長岡まつりの大花火大会では、現在、新潟県中越地震からの復興祈願花火「フェニックス」が打ち上げられており、多くの観客を魅了しています。

見附市は、大風合戦が有名な地域で、空高くまで揚げられた大風が、大空を華麗に舞う有様は多くの見物客を驚嘆させる名物となっています。また、地場産業のニットは昭和初期から「見附ニット」のブランドとして知られ、全国有数の繊維産地の街となっています。

出雲崎町は、日本海に面した港町で、江戸時代には幕府直轄の天領地となり、北前船の寄港地、佐渡島からの金銀荷揚げの地として栄え、松尾芭蕉の『おくのほそ道』にも登場した地域です。また、紙風船の生産日本一の地域でもあります。

2. 消防協会長岡地区支会内の消防団の概要 (平成31年4月1日現在)

長岡市は、1団本部と80分団273部の3,904名(うち女性団員24名)の体制で、消防団車両は、指揮隊車等3台、ポンプ車6台、小型ポンプ付積載車200台を配備しています。

見附市は、1団本部と8分団48部の558名(うち女性団員10名)の体制で、消防団車両は、ポンプ車2台、救助資機材搭載積載車1台、小型ポンプ付積載車45台を配備しています。

出雲崎町は、1団本部と4分団11部の165名で、小型ポンプ付積載車14台を配備しています。

3. 消防団員安全管理セミナー開催の経緯

毎年、新潟県消防学校の学校以外で行う教育訓練として、新潟県消防協会の各地区支会で消防団員校外講習を行うことが規定されているため、当地区支会では、毎年4月に各消防団の幹部を対象に様々な教育訓練を行っています。

その中で安全管理に関するカリキュラムは、5年前のS-KYT指導員による講話以来実施しておらず、各消防団では毎年公務災害が発生していることを受け、幅広い知識や経験を有した方による安全管理に関する研修の開催要望があったことから、校外講習において「消防団員安全管理セミナー」を開催することとなりました。



4. 消防団員安全管理セミナーの様子

4月14日(日)長岡市消防本部を会場に、約200名の消防団員が訓練礼式、ポンプ操法研修会を行い、引き続き、「消防団員安全管理セミナー」を受講しました。

講師には、S-KY T指導員の宇都宮良幸氏をお招きし、消防団員の災害現場やポンプ操法等でのケガ等をどのようにして減らしていくのか、また、どのように防止していくのかなどをテーマに講演していただきました。

今まで気づきにくかったことや改善していかなければいけない点等について、講師からわかりやすく丁寧に説明していただきました。参加者は、熱心に講師の話に耳を傾け、現場に潜む危険要因に対して、意識を高く持つことの重要性を学びました。



5. 今後の取組について

今回の研修を通じて、各消防団幹部の安全管理に対する意識の向上が図られたことで、安全管理の考え方を各分団に持ち帰ってもらい、所属団員への指導に生かしていくとともに、地域防災力の向上に努め、地域住民の期待に応えていきたいと考えています。

結びに、この度の研修の開催に御協力をいただいた宇都宮講師をはじめ、消防団員等公務災害補償等共済基金の方々に心より感謝申し上げます。

